

第2次甲賀市総合計画（案）のための
甲賀市の未来をみんなで考えるおしゃべりカフェでの意見

参考資料

主な視点

1. ○○してほしい。
2. 甲賀市（この計画）のここが良い。
3. 甲賀市（この計画）のここがダメ。

4月16日（日）	（信楽地域）	10：00～12：00	信楽中央公民館
4月16日（日）	（水口地域）	13：30～15：30	水口社会福祉ホール
4月22日（土）	（甲南地域）	10：00～12：00	忍の里プララ
4月23日（日）	（土山地域）	9：30～11：30	森林文化ホール
4月23日（日）	（甲賀地域）	13：30～15：30	かふか生涯学習館

参加人数：計33名

No.	分野	いただいたご意見の要旨	ご意見に対する市の考え方	関係箇所
1	全体	旧5町の特性が豊かである。多様性を守ってほしい。	地域ならではの歴史や文化、住民の「多様な個性」を活かすことは、それぞれの「豊かさ」や「幸福」を追求するうえで、最も大切な要素と考えています。地域ごとの特性を活かした規制や規制緩和、特別な支援を行うため、チャレンジプロジェクトに取り組みます。	〈基本構想〉 P. 21
2	全体	旧5町に特色があり、平均的な施策は市民にとってピンとこない。地域の特徴を活かした施策が必要である。	若者の「活躍したい」という思いをかなえるため、あらゆる場面でのチャレンジを応援します。特に自治振興会や区・自治会で若者が活躍できるような支援を行います。	〈基本構想〉 P. 21 〈基本計画〉 P. 7
3	全体	若者の意見が通りにくい。	市民や各種団体、企業などまちづくりを担う誰もが主役となり、それぞれが役割を持ち、理解しあうことで、みんなの力を合わせて未来を拓けるよう、人材の発掘等に取り組みます。	〈基本構想〉 P. 25 〈基本計画〉 P. 13
4	全体	いつも同じ人が活躍している。隠れた人材（財）は豊富なのに、活かしきれていない。	目の前の課題だけでなく、長期的で多角的な視点を大切にし、未来の市民のためにできることを現在（いま）の市民とともに考えることを、行政経営の方針とします。	〈基本構想〉 P. 24
5	全体	市民も行政も長期的な視点が不足しているのではないか。もっと、課題意識を持って取り組むべきである。	若者が定住する要素がない。	〈基本計画〉 P. 3
6	全体	人口減少、少子高齢化が著しいのが課題である。	人口減少、少子高齢化の対策としては、出生率の上昇と若者・子育て世代の転入により、人口の増加と人口構造の安定化を図る「攻め（積極策）」と、避けられない人口減少に向き合い、地域社会の仕組みを今後の人口構造の予測に即したものに再構築する「守り（調整策）」があります。持続可能な自治体経営を行うため、これらのバランスを取りながら施策を進めることとします。	〈基本計画〉 P. 7
7	全体	市民レベルでの祭り、イベントが減っている。特に地域ごとの特色あるイベントが減っているように感じる。	地域ならではの歴史や文化、住民の「多様な個性」を活かすことは、それぞれの「豊かさ」や「幸福」を追求するうえで、最も大切な要素と考えています。地域ごとの特色あるイベントを地域自らが企画・運営できるよう、自治振興会の活動等を支援します。	〈基本構想〉 P. 19
8	市民自治			〈基本構想〉 P. 21 〈基本計画〉 P. 13

No.	分野	いただいたご意見の要旨	ご意見に対する市の考え方	関係箇所
9	市民自治	市民協働提案事業の仕組みの改善が必要である。通常の補助金の仕組みではなく、市民活動の実情に合ったものへ見直すべきである。	さまざまな課題解決に向けたコミュニティ活動に対し、その活動が自立したものとなるよう支援します。また、市民自治を迫及する活動に対して、実情にあった支援を進めます。	〈基本構想〉 P. 22 〈基本計画〉 P. 13
10	市民自治	住民の自治への意識が低いのではないかと、あきらめている雰囲気を感じる。	区・自治会への加入率は年々低下していますが、その重要性は増えています。一方で、テーマ型の市民活動は活発化しています。今後とも、市民自治を追求し、チャレンジする市民の「行動力」を応援し、さまざまな課題の解決に向けたコミュニティ活動に対し、その活動が自立したものとなるよう支援します。	〈基本構想〉 P. 22 〈基本計画〉 P. 13
11	市民自治	旧町単位の意識が強く、一体感がない。区・組単位の意識も同様である。	市としての一体感の醸成を図りながらも、地域ならではの歴史や文化、住民の「多様な個性」を大切にすることとしています。なかでも、自治振興会は概ね小学校区単位の顔の見える関係性のなかで、各種団体、NPO、企業等の参加により組織され、地域の特性を活かしたまちづくりを進める団体です。これらの取り組みを通じて、地域ごとの一体感の醸成を図ります。	〈基本計画〉 P. 13
12	市民自治	区・自治会など地域の行事が多すぎる。通常の字の行事と行政から依頼されたもので以前より増えた。考え直してほしい。	自治振興会と区・自治会との違いや、役職、行事への負担感については、多くのご意見をいただいています。行政とコミュニティ組織の関わり方についても改善すべき点が多く、今後検討を重ねていきます。	〈基本計画〉 P. 13
13	市民自治	自治振興会と区・自治会の役割分担を明確にしてほしい。		〈基本計画〉 P. 13
14	市民自治	地域行事が煩わしい。続けるべき、やめるべき行事の使い分けができていない。区・自治会・社寺費も高い。		〈基本計画〉 P. 13
15	市民自治	通勤・通学者、企業等なども含まれるのが自治振興会だが、その理念や仕組みが多くの人に伝わっていないのが問題ではないか。	地域課題に向きあう自治振興会の活動に、市民がより参画できるよう、多様な機づくりや仕組みづくりを促進する必要があります。ご意見のとおり、自治振興会の理念については、行政も事業者等に対して、主体的に発信する必要があると考えます。	〈基本計画〉 P. 13
16	市民共生	地域のつながりがあり、「結」の精神が守られているのが特徴である。	区・自治会は、近隣、集落程度の範囲で、相互扶助や暮らしやすい地域をつくるため、人のつながりを基にした自主的な組織であり、「結」の精神を受け継ぐものです。高齢社会における見守りや大規模災害への備えなど、個人では対応できない課題解決に向けた取り組みに対して、行政と区・自治会は互いに協力する必要があります。	〈基本計画〉 P. 13

No.	分野	いただいたご意見の要旨	ご意見に対する市の考え方	関係箇所
17	シティセールス	地域への愛着・住み続ける意識が育っていない。子育て施策は充実しているのに、子どもは進学・就職によって一旦出て行くと戻ってこない。	本市にとって、特に重要なのは「就職」のタイミングであると考えています。U I Jターンを促進するため、市内就業や起業を支援するとともに、シビックプライドの醸成に取り組みます。	〈基本計画〉 P. 7 P. 19
18	シティセールス	甲賀市の「中途半端」なところを長所としてほしい。	「中途半端を前向きに捉えて」とのご意見はこれまでも数多くいただいています。自然豊かでありながら、都市的機能を備えるなど、本市の住みよさをシティセールス等で発信します。	〈基本計画〉 P. 19
19	環境・景観	太陽光パネルの開発などが増えている。景観を守る規制をしてほしい。	市民や事業者との協力のもと、地域性豊かな景観づくりを進めるうえで、太陽光パネルによる景観への影響も課題となりつつあります。新産業特区プロジェクトは「規制」と「規制緩和」に取り組むものであり、これらの課題についても対応を検討します。	〈基本計画〉 P. 7 P. 21
20	環境・景観	森の幼稚園など、自然学習を強化してほしい。自然環境など、地域の良さを親が子に伝えるきっかけを作してほしい。	自然体験や農林業体験、環境学習等の魅力あるプログラムを提供していきます。	〈基本計画〉 P. 21
21	環境・景観	自然が豊かである。この自然を維持してほしい。	里地里山や歴史的なまちなみ、人々の暮らしや生業から生まれる生活風土など、美しいふるさとと景観を保全します。また、市民や事業者との協力のもと、地域性豊かな景観づくりを進めます。	〈基本計画〉 P. 21
22	地域福祉	高齢世帯の将来が不安である。地域でどのように生活していくのか。可能ならば、共同で生活のサポートができる施設が増えてほしい。	誰もが住み慣れた地域で暮らしつつけることができるよう、地域共生の取り組みを進めるとともに、介護予防の推進と認知症対策を重点としながら、地域包括ケアシステムの充実を図ります。共同で生活のサポートができる施設についても、これらの取り組みのなかで対応します。	〈基本計画〉 P. 7 P. 29
23	保健・医療	12才まで医療費が無料化となる。福祉は充実しているので、このまま制度を維持してほしい。	「子育て世代応援プロジェクト」において、子育て世代の保育・医療に係る経済的負担を支援することとします。平成29年10月より市内在住の小学校6年生まで対象者を拡大し、医療費の自己負担分を全額助成します。	〈基本計画〉 P. 7 P. 31
24	保健・医療	「かかりつけ医」のシステムの構築に重点的に取り組んでほしい。	在宅医療・看取りを含めた包括的な地域医療体制の充実を図り、地域の開業医や大学病院、専門病院との連携による医療ネットワークを構築します。	〈基本計画〉 P. 31
25	住まい・生活	移住ツアーを開催してほしい。	まちの魅力とライフスタイルについて、都市部へ発信するため、移住ツアーを開催します。	〈基本計画〉 P. 7
26	住まい・生活	空き家対策の強化が必要である。大原学区では「活用」より、廃屋の「処分」の必要性が高い。	廃屋の「処分」も大きな課題ですが、まずは空き家の「予防」と「活用」を重視し、住宅の需要と供給のミスマッチの解消や移住促進、地域活性化の資源としての活用を支援します。	〈基本計画〉 P. 33
27	住まい・生活	空き家を売却するときは、民間業者が地域（区費や地域行事など）の情報も伝えるようにしてほしい。	移住促進を進めるうえで、地域情報の提供は必要不可欠です。甲賀市空き家バンクにおいては、区費や地域行事の情報提供をしているところです。民間売買における同様の取り組みは、区・自治会も求めているところであり、今後、その手法についても検討していきます。	〈基本計画〉 P. 33

No.	分野	いただいたご意見の要旨	ご意見に対する市の考え方	関係箇所
28	安全・防災	治安がよいのがまちの強みである。	地域コミュニティの活動をさらに活性化することで、暮らしの中の事故、けが、犯罪、災害被害の予防対策の普及、促進を図ります。	〈基本計画〉 P. 35
29	安全・防災	災害が少ないのが良い。	今世紀前半の発生が危惧される南海トラフ地震や、近年頻発する局地的豪雨、大雪など自然災害への対応が必要となってきています。	〈基本計画〉 P. 35
30	安全・防災 道路・交通	歩道等の整備ができていない。歩行者にやさしいまちづくりができていない。	ユニバーサルデザインによる公共公益的施設の整備や、道路・公共交通機関の安全性の高い環境整備を進めます。また、歩道・自転車道などの交通安全施設の整備について、通学路合同点検の結果などを踏まえて、緊急度を勘案しながら、計画的に整備します。	〈基本計画〉 P. 35 P. 43
31	農林畜水産	木質バイオマスの利用を推進してほしい。県に比べて、市の支援が薄い。担当者も見えない。	地域産材の利用促進や森林環境学習、木質バイオマスの活用などの取り組みを進めます。	〈基本計画〉 P. 7 P. 37
32	農林畜水産	林野・田畑の耕作放棄地が増えているので、対策が必要である。	耕作放棄地等の活用を進めるとともに、農業の生産基盤の整備や担い手確保に取り組みます。また、森林の保全・適正管理のため、治山事業や施業集約化に取り組みます。	〈基本計画〉 P. 7 P. 37
33	農林畜水産	サル・シカ・イノシシなどの獣害が酷い。	イノシシ等による農林被害やカラス等による生活環境への悪影響を軽減するため、適正な個体数の維持など、外来種も含めた鳥獣対策を推進します。また、集落ぐるみの取り組みを進めるため、地域での研修会、環境点検活動等を充実し、害獣の有効活用について、市民との連携による取り組みを進めます。	〈基本計画〉 P. 7 P. 37
34	農林畜水産	スギ・ヒノキばかりで花粉が多い。	スギ、ヒノキは林業が盛んであった本市を代表する木であり、市の木に制定されています。これらの森林資源は、その多くが育成の段階から木材として利用できる段階にあり、木質バイオマス等での活用を進めていきます。	〈基本計画〉 P. 7 P. 37
35	農林畜水産	農業は横這いでもやむを得ない。林業は現在よりも活性化してほしい。	市内面積の約7割を山林、約1割を田畑が占める本市にとって、農林業の振興は必要不可欠です。6次産業化の推進による地域ブランド化を進めるとともに、地域産材の利用促進や森林環境学習、木質バイオマスの活用などに取り組みます。	〈基本計画〉 P. 37
36	農林畜水産	山も土地もある。やり方によっては農業、林業が盛んになるのではないか。		〈基本計画〉 P. 37
37	農林畜水産	林業関係への補助金などの支援がなくなった。特に、林業を若者の就業先として捉えた支援が必要である。	林業振興と森林の保全・適正管理のため、治山事業や路網整備など生産基盤整備を進め、施業集約化を進める必要があります。また、林業における若者等の担い手の確保・育成等を促進します。	〈基本計画〉 P. 37
38	商工観光	忍者・信楽焼・近江茶を目的に観光客や移住する人が増えてほしい。	多様な観光資源のそれぞれの強みを活かし、観光客誘致を図るため、マーケティング調査に基づき、効果的な観光プロモーションを展開します。また、地域への定住やU I Jターンを進めるため、まちの魅力とライフスタイルについて、都市部へ発信します。	〈基本計画〉 P. 7 P. 39
39	商工観光	忍者のまちとして有名になってほしい。	「忍者」を核として、国内外からの観光誘客を図り、多様なビジネスチャンスにつなげることで、市内への経済の好循環を生み出します。	〈基本計画〉 P. 7 P. 39

No.	分野	いただいたご意見の要旨	ご意見に対する市の考え方	関係箇所
40	商工観光	人が集まるまち。陶器・陶芸の中心地になってほしい。甲賀市って〇〇！って言うくらい有名になってほしい。	地場産業の後継者確保を支援し、信楽焼きのブランド力の向上と海外展開を促進します。また、信楽伝統産業会館の老朽化への対応と活用を進めます。	〈基本計画〉 P. 39
41	商工観光	I C T関係の拠点を整備してほしい。	光ファイバー等の資源を活かした規制緩和や支援に取り組むとともに、農業や観光、I C Tと連携した事業への支援に取り組みます。	〈基本計画〉 P. 7 P. 39
42	商工観光	観光客の受け入れ施設（多言語表示、トイレ等）の整備ができていない。	国内外からの観光誘客を図り、多様なビジネスチャンスにつなげるため、受入れ施設の整備を計画的に進めます。	〈基本計画〉 P. 7 P. 39
43	商工観光	観光資源の目玉がない。アピールするものがないと思う。	日本遺産に認定された「忍者」「信楽焼」、国史跡に指定されている「紫香楽宮跡」「水口岡山城跡」などを重点的に発信します。	〈基本計画〉 P. 7 P. 39
44	商工観光 農林畜水産	水口、甲南へさらに人口が集中する。土山、甲賀、信楽で「働く場所」として観光や農業の6次産業化が必要である。	中山間地域における日常の暮らしを守り、地域の歴史や文化を未来につなぐための支援を行います。また、2次産業だけでなく、1次、3次産業の振興による雇用の場の創出、6次産業化の推進による地域ブランド化を推進します。	〈基本計画〉 P. 7 P. 37 P. 39
45	商工観光	店や買い物が不便である。買物支援サービスもうまく使えない。	買い物や医療など日常の暮らしに必要な機能を守るため、公共交通ネットワーク等をつなぎます。また、自治振興会単位での生活支援基盤を守る視点から、地域とともにコミュニティビジネスの支援に取り組みます。	〈基本構想〉 P. 21 〈基本計画〉 P. 39
46	商工観光	地域ごとの資源を活かしてほしい（土山マラソン、江州音頭、自然、田、畑、東海道）	多様な観光資源のそれぞれの強みを活かし、観光誘客を図ります。また、有形・無形の文化財、伝統文化等を活かし、まちの魅力発信に活用します。	〈基本計画〉 P. 23 P. 39
47	商工観光	観光資源はたくさんあるので、これらを活かしてほしい。（忍者・信楽焼・お茶・東海道・歴史・文化・ゴルフ場・森林・土山マラソン・白川まつり）		〈基本計画〉 P. 23 P. 39
48	商工観光	観光の方針がコロコロ変わるので民間業者の投資が阻害されている。また、民間と行政の連携（協働）ができていない。	多様な観光資源のそれぞれの強みを活かし、観光誘客を図るため、マーケティング調査に基づき、効果的な観光プロモーションを展開します。また、市民、市民活動団体、事業者等による観光まちづくりを推進するため、マネジメント組織の構築に取り組みます。	〈基本計画〉 P. 39
49	商工観光 道路・交通	人が集まるまちになることは重要だが、住民にとっては日常生活に悪影響もある。（渋滞など）	ご意見のとおり、観光振興は、日常の暮らしを守りながらも、地域住民にとって「しあわせ」を感じる手段となるものです。これらの取り組みについては、道路整備や安全対策など複合的な取り組みとなるよう、地域住民との対話を踏まえて進めます。	〈基本計画〉 P. 39 P. 43
50	商工観光	観光に関する市民活動が活発になってほしい。	地域経済への波及効果を重視しながら、市民参加による観光まちづくりを推進するため、マネジメント組織の構築に取り組みます。	〈基本計画〉 P. 39
51	活躍・雇用	創業支援の補助金制度は、県の補助制度よりもハードルが低く、起業にチャレンジできる良い制度である。	「女性、若者の活躍・定住プロジェクト」において、就業や起業を支援します。	〈基本計画〉 P. 7 P. 41

No.	分野	いただいたご意見の要旨	ご意見に対する市の考え方	関係箇所
52	活躍・雇用	若い人がやりたいことをやりたい時にできる。若者の働く場所があるまちになってほしい。	「女性、若者の活躍・定住プロジェクト」において、就業や起業を支援します。また、新たな工業団地の整備等、雇用の場を創出します。	〈基本計画〉 P. 7 P. 41
53	活躍・雇用	市内に仕事がない。	本市の求人倍率は他市と比べて低位という訳ではなく、特に若者、女性が求める「多様な職種づくり」が必要とされています。チャレンジプロジェクトにおいて、これらに取り組みます。	〈基本計画〉 P. 7 P. 41
54	道路・交通	土山地域に鉄道を通してほしい。	土山地域への鉄道の設置については、現時点での計画はありません。しかし、特に土山地域では、公共交通に大きな課題を抱えていることが市民意識調査においても明らかとなつているところです。このことから、中山間地域再生プロジェクトにおいて、バス等による公共交通の利便性改善に向けて、重点的に取り組む予定です。	〈基本計画〉 P. 7 P. 43
55	道路・交通	80歳以上はバスが無料で利用できるのが良い。維持してほしい。	誰もが住み慣れた地域で、その人らしく生活できるよう、公共交通機関の充実を図ります。高齢者の移動手段の確保は、暮らしを守るうえで非常に重要と考えています。	〈基本構想〉 P. 25 P. 43
56	道路・交通	交通が便利になってほしい。信楽は車があれば便利だが、公共交通が不便なので便利になってほしい。	鉄道、コミュニティバス、予約型乗合タクシーなどの公共交通機関の最適化を図ります。また、信楽高原鐵道の整備構想にかかる区間の拡大に向けて、取り組みます。	〈基本計画〉 P. 43
57	道路・交通	鉄道のない土山では、バスしかない。鉄道とバスとの連携システムの構築が必要である。例えば、バスは貴生川駅のホームに、そのまま入るなどできればよい。		〈基本計画〉 P. 43
58	道路・交通	コミュニティバスの利便性を向上させてほしい。	鉄道、コミュニティバス、予約型乗合タクシーなどの公共交通機関の最適化を図るとともに、通勤・通学だけでなく、観光等にも利用できる運行形態とすることで利用者拡大を図ります。	〈基本計画〉 P. 43
59	道路・交通	公共交通が不便である。（車がないと生活できない。タクシーがない。バスが土日運休している。）		〈基本計画〉 P. 43
60	道路・交通	車があれば生活するには、便利なまちだと思ふ。	地域交通や経済、環境等の状況に応じて、効率的な道路整備を進めます。また、車に乗ることができない方のために、公共交通の利便性向上に努めます。	〈基本計画〉 P. 43
61	道路・交通	大阪・名古屋に近く、都市との時間距離は比較的近い。	新名神高速道路の開通により、車の時間距離は大幅に短縮されました。今後は、公共交通による時間距離の短縮が必要です。	〈基本計画〉 P. 43
62	道路・交通	土山 I C 周辺の渋滞が課題である。名神名阪連絡道路の整備もしくは、国道 1 号バイパス整備による渋滞緩和が必要である。	道路整備基本計画に基づき、高規格道路を活かした広域連携による道路整備に取り組みます。また、国道 1 号の拡幅や名神名阪連絡道路の整備促進に努め、I C 周辺の利活用や S A ・ P A の課題の整理に取り組みます。	〈基本計画〉 P. 43
63	道路・交通 都市形成	駅前が活気がない。	駅周辺における都市機能および居住の誘導と土地利用規制の見直しを進めます。	〈基本計画〉 P. 43 P. 49

No.	分野	いただいたご意見の要旨	ご意見に対する市の考え方	関係箇所
64	学校教育・青少年	若い親子さんが、甲賀市の教育レベルの高さに魅力を持てば、市内への転入が増える。教育レベルが県下No. 1のまちになってほしい。	子どもたちが、いきいきと健やかに、安心して夢を追いつづけることができる「子育て・教育No. 1」のまちとなるよう取り組みを進めます。	〈基本計画〉 P. 6
65	学校教育・青少年	大学とその寄宿舎があれば地域に活気が生まれるのではないかと。	大学のない本市にとって、若者の定住は地域への活気を生む手法のひとつです。現時点では大学の誘致に係る具体的な取り組みはありませんが、大学連携については、中山間地域再生プロジェクトの手法のひとつとして、検討していきます。	〈基本計画〉 P. 7 P. 47
66	学校教育・青少年	対話に基づく学校再編をしてほしい。高齢者と親世代で対立関係となっているところもある。「学校は地域の中心」・・・高齢者「子どもの学び重視」・・・親	学校再編にあたっては、子ども達により良い教育環境を提供するため、多くの方々との対話を重ね、総合的に取り組みます。	〈基本計画〉 P. 47
67	学校教育・青少年	学校教育に特徴があつてよい。	市独自の「甲賀市小学校社会科副読本」の活用など、郷土の資源、人材を活用した総合的な学びをさらに進めます。	〈基本計画〉 P. 46
68	都市形成	公園・市民ホール・道の駅・カフェ等の整備ができていないと思う。	人口規模にふさわしい都市機能を誘導するため、公共交通幹線軸の沿線において、土地利用規制の見直しを行い、商業機能や住宅誘導を行います。これらにより、新しい人の流れを生み出します。	〈基本計画〉 P. 7 P. 49
69	都市形成	市街化調整区域の規制緩和や線引きの見直しが必要である。まずは、駅周辺から見直すべきである。		〈基本計画〉 P. 49
70	行財政	閉校している小学校を里山の学校にできないか。そこで、まちからの交流者を受け入れてはどうか。	「中山間地域再生プロジェクト」において、空き公共施設の活用について検討します。なお、活用方法については、地域住民との対話を踏まえて、進めていきます。	〈基本計画〉 P. 7
71	行財政	閉校や休校している小学校をデイサービス等に活用してほしい。		〈基本計画〉 P. 7 P. 51
72	行財政	補助金に頼りすぎである。カネの切れ目が事業の切れ目になっている。補助金は、がんばる事業者や団体の初期投資に使うべきである。運営のなかで稼げるような事業にだけ支出すべきである。	さまざまな課題解決に向けたコミュニティ活動や事業者等に対して、その事業が自立したものとなるよう支援を行います。また、市民自治を迫る活動に対して、より実情にあった支援を行うため、補助金や交付金のあり方について検討を行います。	〈基本計画〉 P. 13